

Q 発掘した時の時代、時を知る基準は何なのか？いつも不思議に思っています。

A 遺跡や遺物の年代を知る方法はいくつかあります。一つは、相対的に大まかな年代を知る方法で、^{そう い}層位学や^{けいしき}型式学に基づいた方法です。層位学は、地層の重なり順番を利用したもので、例えば、桜島から 12,800 年前に噴出した「薩摩火山灰層」とその上にある 7,300 年前に噴出した「アカオヤ火山灰層」の間から出土した遺物は、12,800～7,300 年前の遺物ということになります。型式学は、土器の形や文様などの^{もんよう}変遷、^{へんせん}移り変わりを研究し、土器のつくられていった順番を相対的に知る方法です。

もう一つの方法として、「^{ほうしや}放射性炭素年代測定法」という絶対年代を知る方法があります。これは理化学的な機器を用いて分析する方法で、炭素の^{はんげん き}半減期を利用した方法です。土器などに付着した微量の炭化物やススなどを理化学的に分析すると、その炭化物やススの年代が分かり、土器を使用した年代を推定することができます。竪穴住居等の遺構から炭化物が出土し、これを分析すると、竪穴住居を使用した大まかな年代を推定することができます。ちなみに薩摩火山灰やアカホヤ火山灰などの噴出年代も、地層に含まれる炭化物を放射性炭素年代測定法で測定した値を利用しています。

Q さつま町の求名と永野の間に遺跡があったのですが、なんという遺跡なのでしょう。教えてください。

A おそらく「別府原（びゅうばる）古墳群」だと思います。別府原古墳群は、昭和 42 年に発見され、昭和 44 年に^{さだのり}河口貞徳氏や上村俊雄氏らによって発掘調査が行われました。

調査の結果、地下式^{いたいしづみ}板石積石室（^{せつかん}石棺）墓と呼ばれる古墳時代の墓が 6 基発見され、鉄製の短剣・長剣、^{だいとう}大刀、^{てつ}鉄鍬などが副葬されていました。遺物などから、別府原古墳群は、およそ 5 世紀末から 6 世紀ごろのものと考えられます。遺跡は現在、整備されて、国道 504 号沿いに標識や遺構を見ることが出来ます。

Q 鹿児島で黒曜石は出ないのか？

A 天然のガラスとも称される切れ味鋭い黒曜石は、マグマが地下で急激に冷やされることでできる火山岩の一種です。北海道や信州などが有名ですが、桜島や霧島など火山の多い鹿児島県も、もちろん黒曜石の産地のひとつです。

伊佐市大口の「^{にっとう}日東」や鹿児島市竜ヶ水近くの「^{み ふね}三船」、薩摩川内市樋脇町の「^{かみうしばな}上牛鼻」、いちき串木野市川上の「平木場」、錦江町大根占の「^{ながたに}長谷」など多くの産地が知られており、旧石器時代から石器として使われています。ただ不純物が多く含まれる黒曜石などもあり、縄文人はより質の良い黒曜石を求めて、佐賀県の「^{こしだけ}腰岳」や大分県の「^{ひめしま}姫島」の黒曜石なども入手していました。物々交換などを介して遠方から入手したのでしょう。

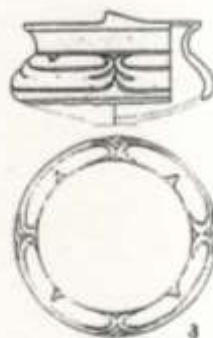
黒曜石は産地によって色味や透明感、不純物などの混ざり具合などが異なるため、遺跡から出土する黒曜石を観察すると、おおよそこの産地の黒曜石か判別できるものもあります。例えば種子島の縄文時代の遺跡から、大分県「姫島」の黒曜石で作った矢じりが出土しています。

Q 鹿児島の縄文土器と北陸・東北の^{かえん}火焰土器との関係は？

A 鹿児島県内で火焰型土器が出土した事例はありませんが、北陸や東北の土器に類似した特徴をもつ土器は出土しています。薩摩川内市の^{まえはた}前畑遺跡では、小さな鉢の形をした土器の一部が出土しました。文様に特徴があって、北陸（石川県や富山県など）で出土する縄文時代中期の「^{にんざき}新崎式土器」に極めて類似しています。また、中種子町の大園遺跡では、東北地方でよく出土する「^{おおほら}大洞式土器」の一部が出土しました。縄文時代晩期の土器で、^{かめがおか}亀ヶ岡式土器とも呼ばれます。これらのことから、あまり多くはなかったかもしれませんが、人の動きや交流、文化の^{でんぱ}伝播が広範囲に及んでいたことが分かります。



前畑遺跡（薩摩川内市）



大園遺跡（中種子町）